

7. 和紡従業員の血液値と食物費の関係

愛知学芸大 奥山 静

1. 愛知県西三河地方には特殊産業として和紡（ガラ紡）工業が盛んに営なまれているが、これらの工場は何れも零細企業工場が多く誠に好ましからざる環境のもので働らいている有様は現代社会の一縮図ともみられる。従ってこれら工場労務者の健康状態も決して良好とはいえない。先に彼等（従業員）の97名について血液像の調査を行なった結果、赤血球数、血球素量は正常限界の下辺にあり、白血球数には特に変化はないが、企業別にみると小企業程血球素量の減少が目立っている事を先に発表した。そこでこの貧血傾向の要因を明らかにするため、血液値と食生活との関係を追求してみた。

2. 血液値の調査を行なった96人のうち通勤労働者27世帯について1960年5～9月の5ヵ月間の調査である。

3. 血球素量、赤血球数とエンゲル系数、家族単位上の間には、 -0.462 ± 0.154 、 -0.770 ± 0.183 、 -0.878 ± 0.044 、 -0.577 ± 0.128 、と逆相関が成立ち、食物費との間にはその相関が見られるが白血球数にはこれらの関係は認められない。

即ち赤血球数及び血球素量の減少は、食物費が少なくしかも家族数の多い場合に見られ、エンゲル系数の高いもの程貧血傾向にあることがうかがわれた。